

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の1998年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国庫（3,650,000円）、県費（1,825,000円）の補助金の交付を受け、平成10年4月3日から平成11年3月31日まで実施した。
3. 調査組織

調 査 主 体 者 大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担 当 課 生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教 育 長 遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
生涯学習課長 仲野政男	大井町臨時職員・発掘調査補助員	土本医
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
 執 筆：縄文土器 今井堯、本文・遺構 高崎直成
 土器・陶磁器実測：青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、高橋けい子、丹治つや子、山口妙子
 石器実測：石原聡、高橋けい子 土器拓影：石垣ゆき子、植田勢津子、高橋けい子、山口妙子
 土器復元：中田藤子 トレース：青山奈保美、小林登喜枝、須藤さち子、 表作成：植田勢津子
 図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、須藤さち子、高橋けい子、中田藤子、山口妙子、丹治つや子
 遺構写真：坪田幹男・高崎直成・鍋島直久・土本医 遺物写真：高崎直成
 土器・石器実測の一部を（有）文化財COMに委託した。
 また、整理作業のなかで日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
 会田昭明、浅野晴樹、穴澤義功、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、市丸靖子、内田賢司、岡田憲治、小澤千恵子、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、桜井信枝、笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、高橋京子、田中信、中島宏、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会、（有）文化財COM。
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、石原聡、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高木千恵子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、三村美代子、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、植田勢津子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
 土器実測図 1:4 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 銭 1:1
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱  地山（ローム）  焼土 
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
 - (4) 土器実測図における screen-tone の指示。
 地文縄文  撚糸文 
 - (5) 土器断面図は、「」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 1998年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	試 掘 期 間	調 査 措 置
1	江川南遺跡第9地点	東久保1街区2・3画地	875	共同住宅	10.10. 9	試掘
2	江川東遺跡第5地点	東久保1-155-6	164	土地分譲	10. 6. 1～10. 6. 9	試掘
3	亀久保堀跡遺跡第7地点	東久保32街区7画地	165	砂利敷駐車場	10.11.16	試掘
4	亀久保堀跡遺跡第11地点	東久保2街区12画地	151	個人住宅	10. 4. 8～10. 4.22	試掘
5	亀久保堀跡遺跡第12地点	東久保258-46	123	個人住宅	10. 5. 8～10. 5.21	試掘
6	亀久保堀跡遺跡第13地点	東久保5街区11・12画地	107	個人住宅	10. 5. 8～10. 5.21	試掘
7	亀久保堀跡遺跡第14地点	東久保2街区11画地	132	個人住宅	10. 4. 8～10. 4.22	試掘
8	亀久保堀跡遺跡第15地点	東久保7-2街区4・5画地	111	個人住宅	10. 5. 8～10. 5.21	試掘
9	亀久保堀跡遺跡第16地点	東久保5街区18・19画地	117	個人住宅	10. 6. 1	試掘
10	亀久保堀跡遺跡第18地点	東久保7-2街区1・2・7～9画地	908	個人住宅4軒分	10.11.5～10.11.30	試掘
11	亀久保堀跡遺跡第19地点	東久保4街区11・12画地	99	個人住宅	10.11.5～10.11.10	試掘
12	亀久保堀跡遺跡第20地点	東久保8街区5画地	185	個人住宅	10.11.24	試掘
13	東久保西遺跡第4地点	東久保10街区1画地	298	砂利敷駐車場	10.12. 2	試掘
14	東久保西遺跡第5地点	東久保9街区9画地	194	個人住宅	10.12.14	試掘
15	東久保西遺跡第6地点	東久保12街区1・2・10画地	1,959	店舗	11. 2. 9～11. 2.15 (11. 2.24～11. 3. 1)	試掘後遺跡調査会で本調査
16	東中学校西遺跡第13地点	東久保2街区12画地	218	専用住宅	10. 6. 9～10. 6.11	試掘
17	東中学校西遺跡第14地点	東久保44街区11・20・26画地	1,231	共同住宅	10. 6.23～10. 6.26	試掘
18	東中学校西遺跡第15地点	東久保45街区1・4・6画地	2,649	店舗専用駐車場	10. 8.24	試掘
19	東中学校西遺跡第16地点	東久保42街区6画地	1,347	店舗専用駐車場	10. 8.19～10. 8.31	試掘
20	東中学校西遺跡第17地点	東久保38街区7・8画地	1,131	店舗専用駐車場	10. 8.24	試掘
21	東中学校西遺跡第18地点	亀久保319-1	850	テニスコート	11. 2.15～11. 2.17	試掘
22	東中学校西遺跡第19地点	東久保52街区8画地	944	アスファルト駐車場	11. 3.17	試掘
23	東久保南遺跡第14地点	東久保63街区2画地	333	個人住宅	10. 6.25～10. 7. 1	試掘
24	東久保南遺跡第15地点	東久保60街区6画地	143	個人住宅	10. 7. 8～10. 7. 9	試掘
25	東久保南遺跡第16地点	東久保59街区3画地	541	共同住宅	10.12.14	試掘
26	東久保南遺跡第17地点	東久保46街区9・10・17画地	1,264	自動車ショールーム	11. 2. 2～11. 2. 3	試掘
27	西ノ原遺跡第110地点	苗間146-2	385	郵便局	10. 4.20～10. 5.28	試掘
28	西ノ原遺跡第111地点	大井苗間23街区9画地	354	個人住宅	10.10.23～10.10.27	試掘
29	西ノ原遺跡第112地点	大井苗間23街区9画地	144	個人住宅	11. 2. 9	試掘
30	中沢前遺跡第15地点	大井苗間34街区1画地	109	個人住宅	10. 7.13	試掘
31	中沢前遺跡第16地点	大井苗間30街区6.7画地	482	共同住宅	11. 3.12～11. 3.15	試掘
32	中沢前遺跡第17地点	大井苗間32街区2画地	165	個人住宅	11. 3.12～11. 3.15	試掘
33	神明後遺跡第7地点	苗間260	1,460	個人住宅	10. 6. 1～10. 6. 2	試掘
34	神明後遺跡第8地点	苗間235-1	458	共同住宅	10. 7.21～10. 7.24	試掘
35	神明後遺跡第9地点	苗間310-1	219	共同住宅兼自家用車庫	10. 9. 1～10. 9.11 (10. 9.14～10.10.15)	教育委員会で 本調査

X 神明後遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い今後徐々に再開発が進むと思われる。

本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、1999年3月現在12ヶ所で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

2 神明後遺跡第7地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者から「埋蔵文化財事前協議書」が1998年4月22日付けで町教育委員会に提出された。調査区は遺跡の西側に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在確認のため試掘調査を実施することとした。

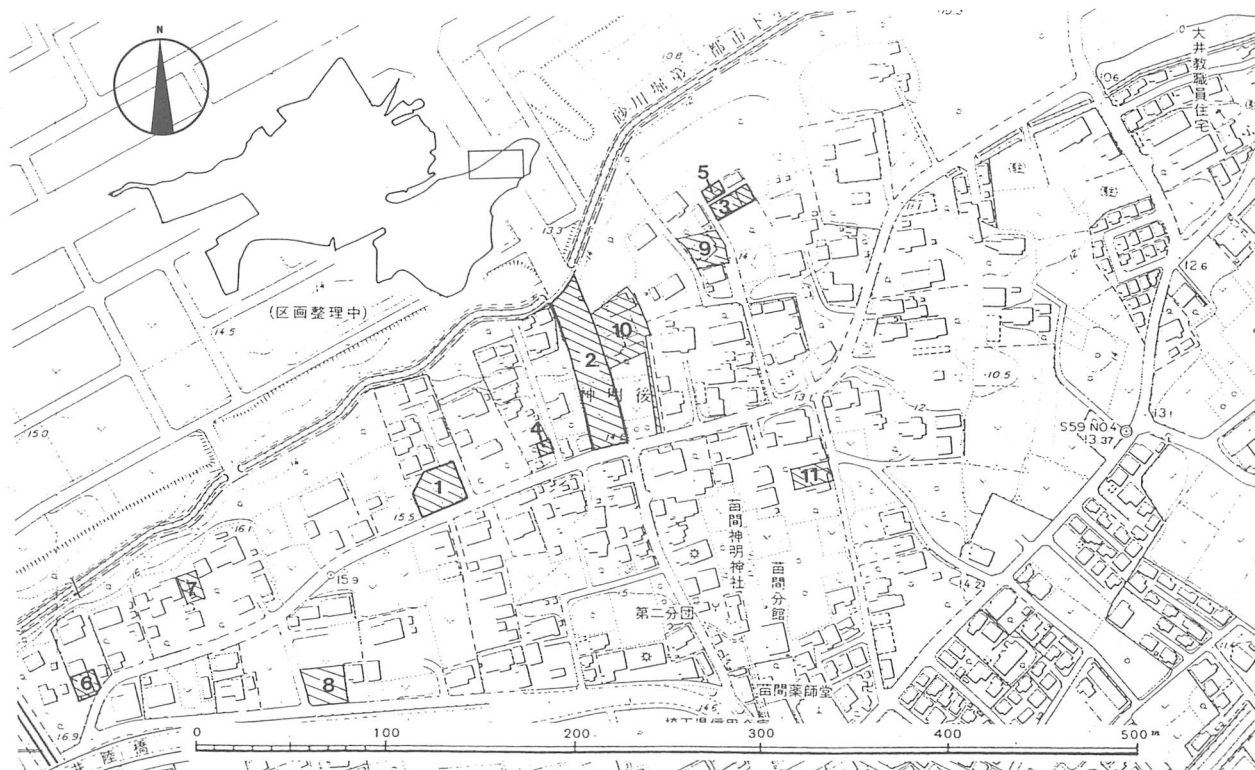
調査区の長軸方向に2×2mのグリッドを6ヶ所設定し、6月1日から人力により表土除去と精査を行った結果、近世の地下室1基を検出し、6月2日に調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

【地下室】 地下室は4.5×4mの範囲で確認でき、ほぼ円形を呈するが、中段に幅35cmの長方形の張り出しを持つ。確認面からの深さは197cmを測る。

【地下室出土遺物】 (第49図)

1～10は縄文土器。1～3は直接接合しないが同一個体で、1は筒形深鉢の口縁部。地文は縦回転によるLR縄文で、密な部分と間隔をあけた部分を含む施文。胎土にはチャート粗砂粒。白色軟質物質・輝石・角閃



第48図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

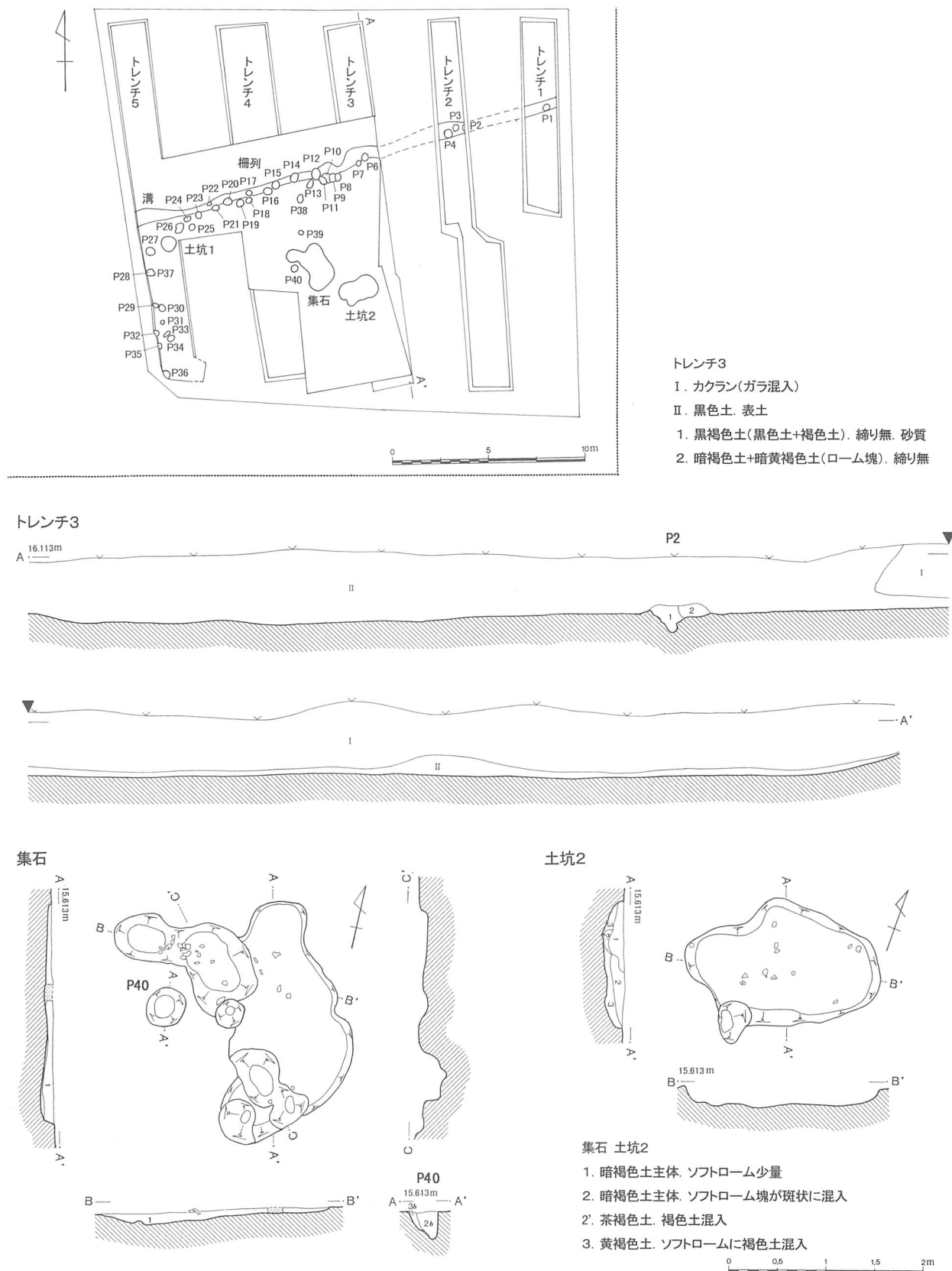
3 神明後遺跡第8地点

(1) 調査の概要

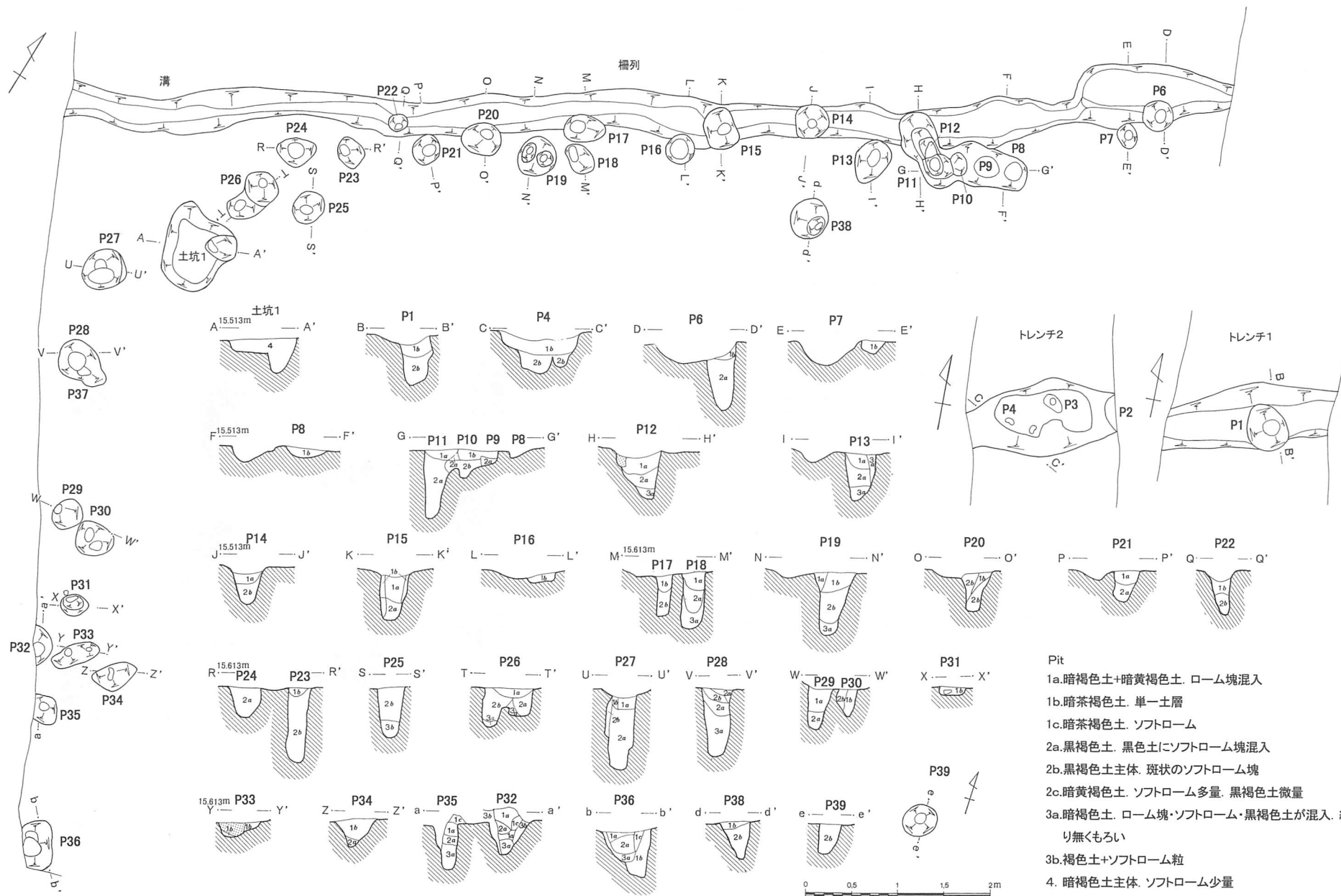
調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が1998年6月25日付けで町教育

委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東南部に位置するため申請者と協議の結果、遺跡の範囲確認と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は7月13日から幅約2mのトレンチを5本



第51図 神明後遺跡第8地点遺構配置図(1/300)・土層・集石・土坑(1/60)



第52図 神明後遺跡第8地点溝・柵列・土坑 (1/60)

設定し、重機による表土除去の後、人力による表面精査を行った結果、トレンチ3～5で黒色土の範囲を確認したため重機で拡張し、表土除去後人力による調査を行った結果、縄文時代の土坑3基と近世以降の柵列1を検出し7月24日調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

【集石土坑】調査区中央南側に位置する。集石プランは44×25cmの範囲を中心に小さくまとまり、全体として145×80cmの範囲に散在する。土坑プランは「T」字形を呈し、上端250×236cm、下端227×215cm、深さは集石部分で確認面より16cm、南側の凹凸の最も深い部分で31cmを測る。

【集石出土遺物】（第53図1～5）

1は、断面三角形の隆帯裾に半截管状工具による押引文を入れる。2は、押引きによる波状沈線を描く。3は胴部片で、無文地に隆帯によるクランク状懸垂文の一部が残る。4は、指頭圧痕のみの胴部片。1～4の胎土には白色細砂粒・白色軟質物質・輝石粉末と多量の金雲母を含んでいる。5は無文の口縁下に沈線が入り、胎土に輝石・石英粉末を含んでいる。

【土坑1】調査区西側に位置する。平面形は不整四角形を呈し、上端98×76cm、下端72×45cm、深さは確認面より15cmを測る。北東部にピットを伴い、深さは確

認面より35cmを測る。

【土坑2】調査区中央南側に位置する。平面形は不整五角形を呈し、上端201×131cm、下端182×105cm、深さは確認面より22cmを測る。南西部にピットを伴い、深さは確認面より28cmを測る。

【土坑2出土遺物】（第53図6～9）

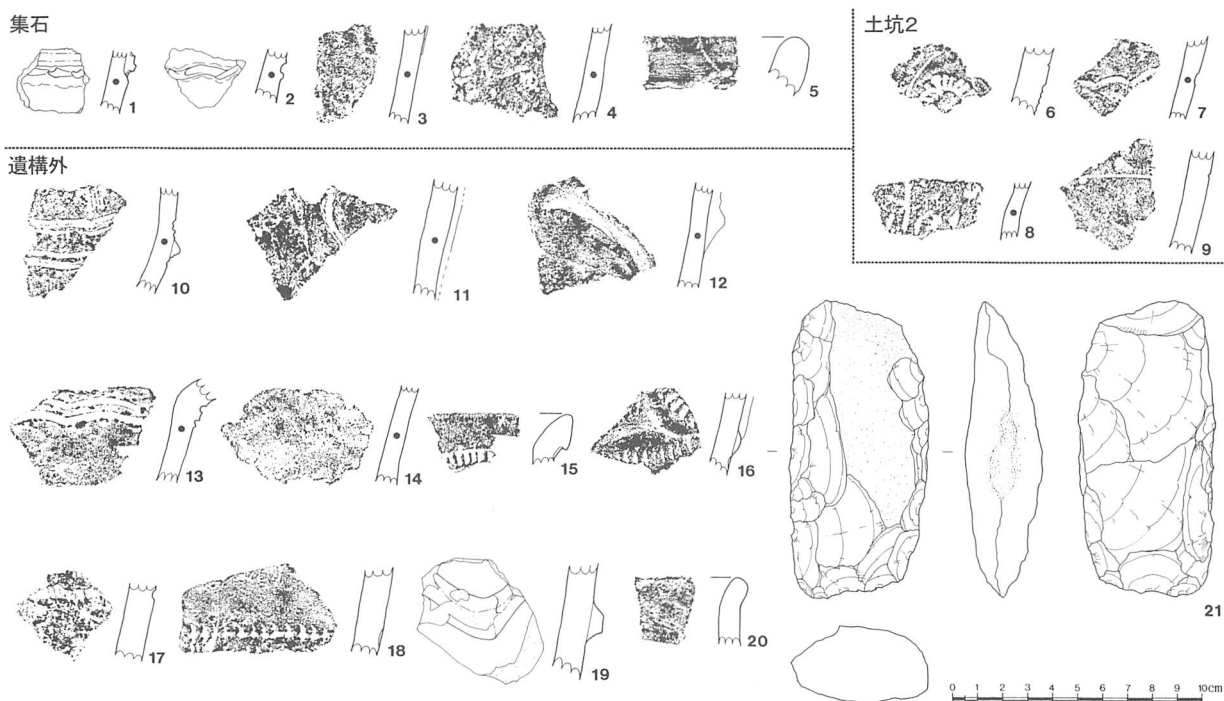
6は、押引文によって花卉状をつくる。7は、長い押引きによる波状文が描かれる。8には連続指頭圧痕がある。9は細い沈線をもち黒褐色を呈する。6と9の胎土には白色のガラス粉末、7と8の胎土には金雲母を含むことが特徴である。

【柵列】調査区中央に東西方向に約22m、西側で南に曲り、南北方向に約6.5m検出した。柱穴間の距離は1～1.5m、平面形態は円形から楕円形、径は25～55cm、深さは14～94cmを測る。

【溝】柵列と平行する。柵列の柱穴と時期差はない。調査区中央に東西方向に約22.5m検出し調査区域外へ延びる。断面形態は浅い皿状を呈する。上幅25～69cm、下幅6～12cm、深さ6～23cmを測る。

【遺構外出土遺物】（第53図10～21）

10は、断面三角形の隆帯沿いに半截管状工具による波状押引きがある。11は断面三角形のクランク状懸垂文がある。12は口縁文様帯で高い区画隆帯をもつ。13



第53図 神明後遺跡第8地点出土遺物 (1/3)

は2本の波状沈線をもつ頸部片。14は無文の胴部片。

15は、口縁下に幅広押引文を入れ、16は口縁の区画隆帯裾に一部にかけて連続押引文を入れる。17は磨滅著しいが押引文が横位に施文される。18は片側を深くした連続幅廣押引文で一見爪形を呈する。19は破損著しいが隆帯で楕円形区画をつくる。20は無文の口縁片。

10～14は胎土に金雲母を含み阿玉台Ⅱ式で、15～20は勝坂Ⅱ式と言える。

8地点出土土器は、集石・土坑・遺構外ともに阿玉台Ⅱ式・勝坂Ⅱ式を主体としている特徴がある。

21は砂岩製の打製石斧。長さ11.9×幅5.6×厚さ3.1cm。重さ206.4g。

第20表 神明後遺跡第8地点柵列ピット一覧表 単位(cm)

No.	確認面径	底径	深さ	備考
1	54×43	18×18	52	円形
2	40×(11)	—	23	未掘
3	24×14	7×6	30	楕円形
4	—	10×5	47	楕円形
5	—	9×5	43	楕円形
6	35×33	14×12	95	円形
7	30×22	10×9	12	隅丸方形
8	36×28	21×20	13	楕円形
9	46×34	28×22	16	楕円形
10	46×24	25×17	33	楕円形
11	36×35	14×11	89	楕円形
12	53×40	13×10	72	隅丸長方形
13	50×35	20×11	60	楕円形
14	41×34	9×9	43	円形
15	44×35	15×12	61	楕円形
16	32×30	22×20	20	円形
17	45×28	18×14	55	楕円形
18	39×27	18×8	79	楕円形
19	43×41	10×7	78	円形
20	45×35	15×10	45	円形
21	33×29	16×12	36	円形
22	20×20	8×7	51	円形
23	36×30	13×10	89	隅丸方形
24	42×33	18×17	36	楕円形
25	38×31	15×10	54	円形
26	64×37	10×9	46	楕円形
27	49×43	29×17	91	円形
28	37×29	19×18	75	円形
29	37×33	11×8	47	隅丸方形
30	41×37	17×8	41	楕円形
31	32×24	15×5	11	楕円形
32	44×(21)	15×(13)	33	未掘
33	53×21	9×7	22	楕円形
34	50×28	14×5	78	隅丸長方形
35	30×(24)	11×10	51	隅丸方形
36	55×32	20×20	59	楕円形
37	30×30	11×(10)	68	楕円形
38	46×40	10×5	48	円形
39	37×34	12×12	36	円形
40	40×39	22×20	25	円形

4 神明後遺跡第9地点

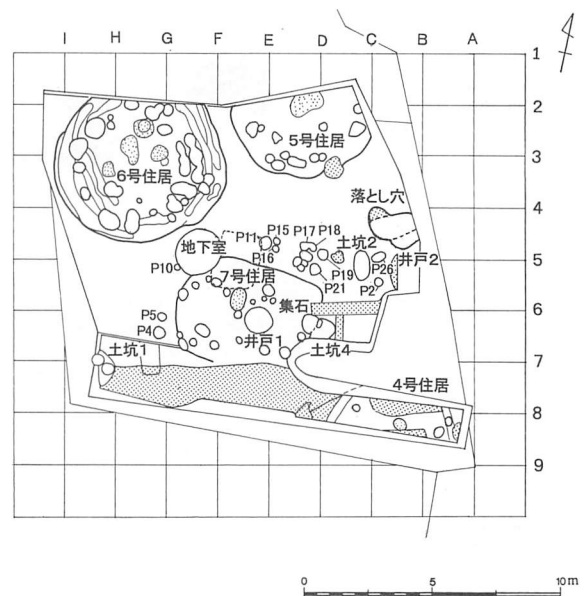
(1) 調査の概要

調査は共同住宅兼自家用車庫建設に伴うもので、原因者より1998年8月3日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東側に位置し、過去の調査では本地点の北側から加曽利EⅡ期の住居跡2軒とEⅣ期の住居跡を1軒検出しており、本地点も縄文時代の集落内にあると思われる。そのため申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

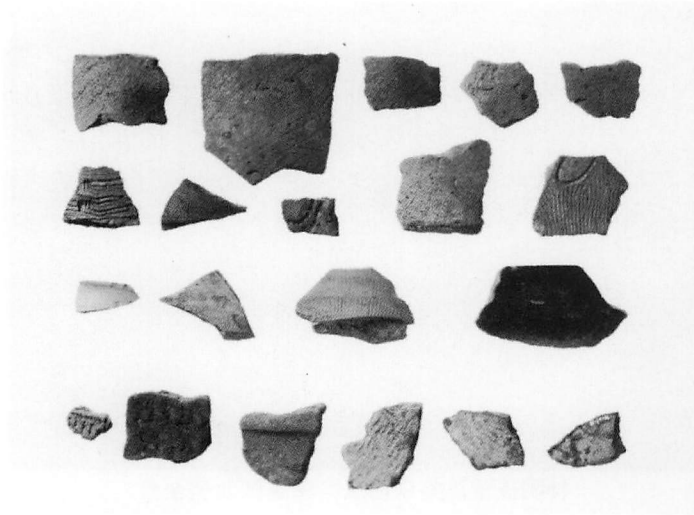
試掘調査は9月1日から幅約2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去の後、人力による表面精査を行った結果、トレンチのほぼ全面で遺構と遺物を確認した。申請者と再協議の結果、自家用車庫分については個人住宅として町負担、共同住宅分については原因者負担で本調査を実施することとし、9月14日付けで申請者と契約を締結した。

本調査は同年9月14日から10月15日まで、大井町教育委員会生涯学習課を事務局とする大井町遺跡調査会が行った。土置き場確保のため調査区を南北で反転した。重機による表土除去の後、調査区域内に2m方眼のグリッドを任意に設定し、杭を4m間隔で打った後人力により調査した。

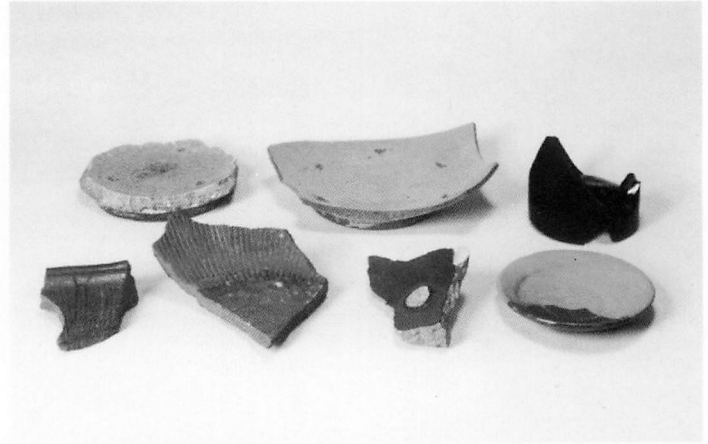
調査の結果、縄文時代の住居4軒、集石1基、落とし穴1基、土坑2基、近世の地下室1基、井戸2基、土坑1基を検出した。



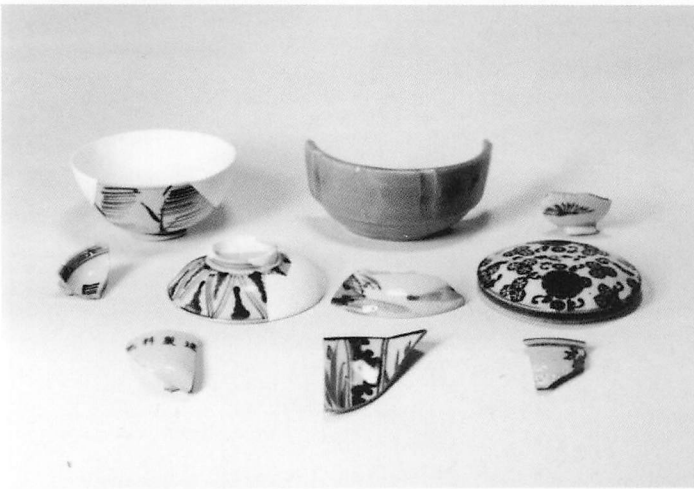
第54図 神明後遺跡第9地点遺構配置図 (1/300)



神明後遺跡第7地点 地下室・遺構外出土遺物1



神明後遺跡第7地点 遺構外出土遺物3



神明後遺跡第7地点 遺構外出土遺物2



神明後遺跡第8地点 出土遺物



神明後遺跡第8地点 調査区全景